

4/21

生活にやすらぎと彩りを 花と緑の日曜学校の開校

平成 31 年度「花と緑の日曜学校」が海浜植物園において始まりました。これは、季節に合わせた題材を用い、年間を通じ幅広い園芸の知識を身に付けるとともに、花や緑を育てる楽しさや人と自然のつながりを学ぶ、今年で 45 回目を迎える講座です。

開校にあたり、副校長の小野副市長が「花と緑に親しみを持ち、心身ともに豊かな生活を送ってください」と受講者に向け言葉を送りました。

その後、海浜植物園の関谷さんから、土づくりや肥料、水やりについてなど「ガーデニングの基礎」についての講義が行われ、18 人の受講者は真剣なまなざしで聴き入っていました。



4/23

安心と安全のため カギかけ防犯メッセージ伝達式

カギかけ防犯キャンペーンのメッセージ伝達式が市役所で行われました。これは、盗難被害を防ぐため、一人ひとりの防犯意識を高め、安心・安全に暮らせる社会を目指すものです。

富山サンダーバーズの河本 光平選手がカギかけ啓発のメッセージを手渡すと、林市長は「無施錠による盗難被害を根絶できるよう、あらゆる機会を通じ『カギかけ』の重要性を広めたい」と述べました。

富山県の自転車被害のうち、7割以上はカギがかかっていないことが原因で、全国平均を大きく上回っているとのことでした。

皆さん、自分自身の安全・安心を守るためにも、家や自転車、車から離れる際は、カギを必ずかけるようにしましょう！



4/28

春の味覚 栗原タケノコ掘り体験

栗原のタケノコ掘り体験が行われ、県内の家族、親戚、友達同士など 10 組 29 人が参加しました。参加者の中には「栗原のタケノコは灰汁もなくおいしい」と、3 年続けて参加しているご家族もおられました。

掘り方などを教わりながら、鍬を上手に扱い、何本も掘り上げる父親の姿に、子どもたちからは「パパ、力持ちだから」との声も。

親竹や肥料など管理のゆき届いた竹林は、裏年と言われる今年もたくさんのタケノコが地面から顔をのぞかせており、参加者は袋いっぱいのタケノコを持ち帰りました。

また体験後には、タケノコご飯、味噌汁、煮物などタケノコ尽くしの手料理も振る舞われました。



4/30

氷見の海の魅力を伝える観光船 氷見沖クルージング運行開始

シーズン中の安全な運行を祈願する氷見沖クルージング安全祈願祭が、漁業文化交流センターで行われました。

(一社) 富山湾マリンの松原代表理事は「観光に訪れる皆さまに氷見の魅力を伝えたい」とあいさつしました。続いて、酒井船長は「気持ちを引き締め安全第一に、乗客の皆さまにカモメのエサやりや海越しの立山連峰の魅力を満喫してほしい」と語りました。

11月まで阿尾城跡や唐島、定置網周辺を巡る25分間のクルージングが楽しめます。6月ごろからは、海面を跳ねるトビウオの姿が見られることもあるということです。
※詳しくは、観光ポータルサイト「きときとひみどっとこむ」をご覧ください。



5/5

子どもたちが唄を歌い、みこしを担ぐ 宇波コウラウラの祭り

宇波地区でコウラウラの祭りが行われました。

今年は、市の「おらっちゃ創生支援事業」の助成を受け新調した、おそろいの法被を身に付けた年長児から小学校6年生までの33人が参加しました。

過疎化や少子化により子どもの数が減ったことから、地区では女の子や周辺地区の子どもたちへも参加を呼びかけ、継続して実施しています。

子どもたちは、約10年ぶりに勢ぞろいした6荷のアゲモンと呼ばれるお供え物を模したみこしを担ぎ、10日前から練習したアゲモンの唄を、声を合わせて歌いながら地区内を元気に練り歩き神社に奉納しました。



5/8

地元の安心・安全を守り続ける 県民ふるさと大賞受賞

ふるさとへの誇りと愛着を育む取り組みを行う個人や団体に贈られる「県民ふるさと大賞」の表彰式が5月6日に富山県民会館ホールで行われ、氷見市のNPO法人八代地域活性化協議会(理事長 森杉 國作氏)が受賞されました。

同協議会は、平成13年から環境パトロールとしての道路の草刈りや、不法投棄の防止、お年寄りの見守り活動などに長年取り組んでおられます。また、平成17年からNPOバスの運行を開始。NPOバスを運行することで、住民同士の会話をする機会が生まれ、犯罪防止や心配事などの解決につながっているそうです。

8日に林市長に受賞を報告し、森杉理事長は「住民の皆さんが自発的に活動に参加してくれて助かっている」と感謝の気持ちを語ってくれました。



5/9

ふるさとを思う子供たちのために 「ひみキトキト商品券」の販売額の一部を寄付

商工会議所は「ひみキトキト商品券」の1年間の販売額の1%に当たる40万90円を寄付しました。

この商品券は、市内の消費拡大、経済の好循環を目指す「買活6億円プロジェクト」の一環として、平成30年4月に販売を開始したもので、年度末までに4千万9千円が販売されました。

寺下会頭は「ふるさとを学び、体験する活動などに活用し、ふるさとを大切に思う子どもたちが増えてほしい」と語り、林市長は「ふるさと教育の充実に活用させていただきたい」と述べました。



5/11

ドライバーに交通安全を呼びかけ 春の全国交通安全運動「出動式」

春の全国交通安全運動「出動式」が氷見署で行われ、関係者ら約90人が参加しました。これは、「春の全国交通安全運動」のスタートにあわせ、氷見市交通安全対策協議会の各推進機関が、市民一人ひとりの交通安全意識を向上させ、市民総ぐるみで交通事故防止を呼びかけることを目的に、毎年実施しているものです。

式典では、協議会会長の林市長が「交通事故死ゼロを目指し、『安心で安全なまち氷見市』を実現したい」と述べたほか、氷見市交通指導員連絡会の百谷^{ももなや}代表が「飲酒運転の根絶」をはじめとした諸対策を力強く推進することを宣言しました。

式典後、パトカーが一斉に出動し、メッセージプレートを手にした参加者が国道160号線を行き交うドライバーに交通安全を呼びかけました。

